

東京オリンピックに向けて（1950～1964） その2

《1957年、水道3元化》

水道行政は、戦前、内務省が担当していましたが、占領下において建設省と厚生省が誕生すると、整備事業は建設省が、衛生事務は厚生省が担当することとなり、2省に分割されました。2つの水道課が中央政府に並存することになります。

この状況下、東京都は、1958年（昭和23年）から、東京の復興による水道需要の急増に対処するため、第二水道拡張事業及び応急拡張事業を再開し、1950年（昭和25）には長沢浄水場（川崎市に存在）の建設を主体とする相模川系水道拡張事業に着手しました。

川崎市は、相模川河水統制事業に加わり、1947年（昭和22）に相模ダムが完成すると（注2）、そこから導水して川崎市長沢浄水場を建設し、1954年（昭和29）に運転を開始します。

自治体が上下水道を整備するとき、両省に掛け合わないといけませんので、水道行政を一元化せよと、要望が吹き出ていました。これを受け、両省の調整が進められ、ようやく合意に達します。ところがそこへ、通産省が地盤沈下を防ぐための工業用水道整備に名乗り出します。

3省の権限は政府内で調整され、建設省が下水道行政を、厚生省が水道行政、通産省が工業用水道を担当することとされ、1957年（昭和32）に「水道法」が、翌1958年（昭和33）「下水道法」、「工業用水道事業法」が制定されました。水道行政は、3元化されて進められることに落ち着いたのですね。

もちろんこのとき、水資源開発も新しい枠組みを模索し、1957年（昭和32）、「特定多目的ダム法」が制定されます。それまで河川総合開発事業（旧河水統制事業）により水資源開発を行ってきましたが、一つのダムを上水、発電、治水の多目的で建設する場合、厚生省、通産省、建設省に跨る兼用工作物となることから、3省の協議が大変でした。そこで、建設省が中心となり、責任を持って建設する体制に変えたのですね。

この時期、すなわち、1957年（昭和32）に小河内ダムが着工以来20年目にして完成し、1959年（昭和34）には川崎市長沢浄水場に隣接して東京

都長沢浄水場が完成しました。ちなみに、東京都長沢浄水場は、山田守（注1）が設計したモダンな建築で、ウルトラマンシリーズのロケ地となりました。

このように戦前から計画されていた水道施設は相次いで完成しましたが、昭和30年代後半から40年代には、高度経済成長に伴う産業と人口の集中、洗濯機や家庭風呂の普及等により、配水量は毎年日量20～30万m³も増加し、1958年（昭和33）からは、毎年のように渇水が起り、1961年（昭和36）からは多摩川の長期渇水が続きました。

注1:山田守(生没年:1894-1966年)は、東京帝国大学建築学科を卒業し、逓信省に勤務。1924年から復興局土木部に所属し、永代橋、聖橋に代表される関東大震災後の震災復興橋梁のデザインを行った。京都タワーや武道館も設計。

注2:相模ダムは、完成後、堤高を2mかさ上げする再開発に取り掛かり、1954年(昭和29)に完成します。このダムによってできた相模湖は、1964年(昭和39)東京オリンピックにおいてカヌー競技の会場となりました。

写真は、①小河内ダム竣工記念切手(HP「ダム便覧」掲載資料)、②東京都長沢浄水場(Wikipedia 掲載写真)、③ウルトラマンでおなじみの長沢浄水場(Blog「TOKI:LOG」掲載写真より、「水の宮殿」に出現したバルタン星人(妄想)と隣接する川崎市の浄水場に出現したニセウルトラマン 第18話)



